

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中には地域との直接的な理念は挙げていないが、事業計画の中で記述している	○	一対一の関係を大切に地域との交流を深めていけるように具体的に計画したい。また、地域に根ざしたグループホームとは？と、スローガンを掲げ、職員間で考えていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者と職員との関係を大切にしていこう努めている。毎日の連絡会で理念の唱和を行い、理解を深めている。		理念を掘り下げ職員間で話し合い、入居者に対するケアに繋げて行きたい。また、基本理念は素晴らしい物で誇りを持ち仕事に努めている。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族、地域との交流について現在少しずつ増やしているため、今後も機会がある毎に理念の理解をして頂くよう取り組みたい。	○	家族に対しては入居時や行事等の際に説明していく。また、季節行事には地域の方をお呼びして理念に触れていただく。更に回覧版、町内会などを活用していきたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節行事の中で地域の方に参加の呼び掛けを行い、入居者との交流を図った。	○	今後も行事担当などで地域の方の参加、地域小学校などとの交流を考えた行事起案をしていく。また、ホーム近辺のゴミ拾い、収穫できた野菜のおすそ分けなどを考えている。更に寄合いなどにも参加させていただきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	上記同様、地域の方たちとの交流を深めていけるよう努めている。交流方法を検討している。	○	行事の声掛けについて、回覧版の活用を考える。地域の行事に積極的な参加を考えている。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生や見学者の受け入れは行っている。	○	地区の除草作業に入居者と職員で参加していく。介護教室などの実施を考える。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業計画の中で、外部評価の実施を記述しており、予定を立て取り組んでいる。また、評価結果を基に、課題を抽出して取り組んでいる。		直ぐに取り組める環境整備にばかりでなく、入居者ケアを優先しての取り組みをしていく。 自己評価の事後評価を検討する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。会議内容はグループホーム会議で報告。更に、サービスの向上に繋がる意見については、職員への賛同を得て実施をしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスの質の向上に必要な際は相談を行い取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学習する機会が少ない。	○	制度に関する勉強会の参加機会を増やしたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて取り上げられ、職員は学習できている サービス評価委員会で「言葉、態度のえっ？」のアンケートを取る事などで、虐待防止に繋がると思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時の際に、ご家族に問いかけしながら説明を行っている。		家族が持っている不安や疑問点を率直に出せるような雰囲気作りに努める。

福岡県 グループホーム富の里 ユニット1階 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加されている入居者の意見 で、「合唱団」として毎週日曜日に時間を設 定して歌を唄う活動が実施できている。	○	入居者が意見、要望を率直に出せる関係作り をしていく。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	各月に入居者家族へ、グループホームでの身 体面、日常生活の様子を手紙にして知らせ ている。	○	入居者の預り金の報告を綿密にしていく。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情受付窓口が設けられ ている。	○	行事や家族への便りの送付時を利用して、施 設内の意見箱、第三者機関の設置の周知を行 う。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	会議や人事考課での職員面接時に職員から の意見が聴ける。 意見を運営に反映出来るように努めている。		職員からの意見を運営に反映できるよう、管 理者・主任者は話し合う機会を設定して実施 できるように努める。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	勤務調整に関しては、職員との相談を行い調 整できている。		入居者の要望に答える為には、ボランティア 導入も検討していきたい。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、離職の希望が出た場合など職員と の話し合いの場を持っている。また、入居者 に対してもダメージがないように対応して いる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	十分に配慮できている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人理念に人権尊重について述べられており、毎日の唱和を通じて職員の意識向上を図っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修やフォローアップ研修など、職員の段階に合わせて研修を実施している。基礎介護、認知症についての研修会などを行っている。		外部研修によるスキルアップを図っていく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者より、他施設の動向などについての情報提供はあるが、職員が地域の同業者と交流する機会がまだ、設定できていない。	○	地域の同業者との交流を図れる勉強会や、施設研修を企画していく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室の確保やサークル活動は設置できている。職員の悩みなど話せる体制が持たれている。		介護の中に楽しみがあることに気が付く事もストレスの軽減となると思われる。チームワークも必要である。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を活用しながら、職員の努力や勤務状況を把握し、各職員の意識向上を図っている。		向上心が持てる仕組みを作る。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接を実施して、入居者の状態把握に努めている。	○	十分な時間を持ち、アセスメントを行っていく。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込み時より、困っている事・不安や心配事を伺う事に努めている。 職員と情報の共有を図っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	幅広い支援は出来ていない。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は、他の入居者と上手く交流が図れるよう観察しながら充分関わりを持っている。	○	職員が初回面接に同行する。 入居者には、事前の見学をして頂き環境に馴染めるような配慮を行う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は寄り添いながら、思いを受け止めている。また、入居者の豊富な経験から学んだり、人生の先輩、後輩として支え合いながら生活している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の職員の会話を通して、お互いに情報交換が出来たり、依頼を受けたり、依頼出来たりする関係作りに努めている。 ケアカンファレンスに参加の依頼を行っている。	○	カンファレンスの参加を、多くの入居者家族にして頂けるよう働きかける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時にはゆったりと過ごして頂けるように配慮している。また、認知症の進行により家族との関係が悪化しないよう、状態の説明を行っている。		入居者自身が家族へ手紙を書くことへの支援を試みる。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や入居者から、生活歴や以前の生活環境等の聞き取りを行っている。行きつけの美容院、墓参りなど要望に応じて家族引率や職員引率で実施できている。	○	特定の入居者への支援になっている為、今後も、個々のこれまでの関係を断ち切らないような援助を行う。馴染みの場所・馴染みの方への便り・友人を訪ねるなど、活動や環境作りの支援に取り組む。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士が良い関係を築けるように、また、孤立しがちな入居者には職員が積極的に関わりながら間に入っている。		孤立を感じさせない配慮として、一つは多人数でできる活動を考えていく。活動に関しては、職員間で今後も検討していきたい。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とされる方については関係を継続していく。		他事業所へ移られた方にも、利用者を連れて遊びに行ける援助をしていきたい。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	医師決定の、ある程度可能な方については、希望や意向の把握に努めている。センター方式を活用しての把握に努めている。	○	把握できた意向や希望を実践するために、会議などで検討を行いサポートする体制を築いていく。利用者本位の介護提供に努める。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などに関しての一覧表が作成されており、ケアに活かされている。		職員が入居者との会話の中で得たエピソードや生活歴などを加えていく。家族面会時にも話を伺いケースに記述していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	状態チェック表の記入を行い、心身の状態把握に努めている。また、個別のケース記録に毎日の状況についての記録を行っている。情報の共有を行っている。	○	入居者の日常生活の把握・課題など、各職員が共有して解決できるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者と家族にそれぞれ意向を伺い、介護計画を作成している。今年度よりカンファレンスに作業療法士が出席される事で、リハビリ関係の助言を受ける事ができるようになった。	○	担当職員は。実施に向けて他職員にケアプランの周知を行う。 モニタリングを行い、より一層ケアの充実を図る。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際には必要な援助はしているものの、介護計画の見直しは遅い。	○	現状に即した介護計画の、モニタリングを継続していく事に努める。 センター方式の活用方法の検討。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録として個別に記録し、共有できているが、実践や介護計画の見直しには十分に活かしていない。	○	個別の記録から課題としての取り上げ、実践へと繋がるような仕組みが必要。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に合わせた移行は実施している。デイサービスへの参加の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練について、今後消防署との連携を図って行く。地域の方の参加については模索中である。	○	地域の方へグループホームの周知を行う為、新聞やチラシを作成し、各団体や機関に持参、配布を行う。 民生委員との関わりを持てるよう働きかける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	多機能性を活かしたサービス支援となっている。		近隣で実施されているサークルがあれば、参加出来るよう援助していく。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設施設のケアマネージャーに相談、情報を得ている。		インフォーマル（非公式）なネットワークの構築を考えていく。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームのかかりつけ医があり、入居時に家族、入居者に説明を行い、承諾を得て医療を受けている。		受診した結果報告を家族に連絡するだけでなく、状態を見て頂くために、家族の同行を依頼していく事も考えていきたい。個々の通院先も検討の必要性があると思われる。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症外来を受診し、継続した支援を受けている。		認知症が進み、他者とのトラブルが出現した場合、相談・治療を早急に行えるよう努める。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の健康管理については、グループホームの看護師や併設施設の看護師に相談出来る体制があり、支援の依頼が出来ている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時期を確認しながら、退院に向けての情報交換や相談を、病院関係者で行っている。		退院後の入居者のレベルに応じた環境整備を、早急に出来る体制を作っていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応に関しては、家族に相談を行っている。終末期の対応については、まだ取り組んではいない。	○	重度化対応については、まず職員との話し合いを充分に行う必要がある。また、指針作りをしていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化の対応は、家族と相談を行いながら支援しているが、終末期に向けたチームでの取り組みは、まだ出来ていない。	○	今後に備えた検討や準備が必要である。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージを防ぐ為、ケア関係者にて十分な話し合いを持つようにしている。特に併設施設入所のケースには充分に対応できている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービス評価委員を活用しながら職員の言葉使いや態度について、改善のための取り組みを行っている。		「言葉使い・態度の《えっ?》」を活用し、職員の気付きを増やしていきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意見を言えるよう、物事を選択ができるような関わりを持つように努めている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意向を聞き、対応しているが充分ではない。	○	全体を把握しながら、個人のペースを尊重した対応を職員間で話し合い、支援を行っていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	意向の言える方、言えない方に関わらず移動理美容車を利用して頂いている。	○	入居前の、馴染みのある理容・美容の店を利用できる支援に努める。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食の副菜のみを作っている現状であるが、それ以上の取り組みについては困難である。食事についても、職員と一緒に席について摂るようにしているが楽しみとなるような働きかけが出来ていない。	○	食事の場面が、入居者にとって楽しみとなるような工夫をしていく。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を考慮しながら食事を提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、個別に対応している。	○	個々の排泄習慣を把握して、気持ちよく排泄できる支援をしていく。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の体調や希望等を伺いながら、毎日でも入浴して頂ける体制をとっている。	○	夜間入浴の習慣がある方に対応できるよう、支援方法を考えていく。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別に生活パターンを把握しながら、体調や状態に応じて休息や睡眠がとれるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る方には負担にならないように配慮しつつ、役割を担って頂いているが、全員に行えていない現状である。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部能力のある方については、自己管理をされている。 ほとんどの方が職員管理である。	○	買い物時には職員が側に付き、金銭の出し入れ、支払いの支援をしていく。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時には外出できるよう対応を工夫しているものの、毎回の希望には対応が出来ていない。	○	業務の中で、短時間でも希望に添えるような支援に努める。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として季節の花見、スポットへの外出を行っているが、回数が少ない。	○	個人の希望が達成できるよう、職員の活動として対応できるように努めるとともに、家族へ依頼して実現できるよう働きかける。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により支援を行っている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	気軽に来園して頂き、ゆったりと過ごしていただけるよう配慮をしている。 居心地よく過ごしていただけるように、居室に茶等を届けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 身体拘束廃止委員会を設置しており、研修の機会も設けている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間と職員が常駐しており、入居者の所在確認や様子観察を常に行い、安全確保に努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤は場所を決めて、危険がないように収納をしているが、能力のある方は作業の必要に応じて自由に取り出す事が出来ている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を設置している。 職員は、事故報告・ヒヤリハット報告を提出しており、報告を共有し事故防止に努めている。	○	個別の状態に応じた事故防止への取り組みが、更に必要である。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2ヶ月に1度の緊急時の対応の研修を計画しているが、実施できていない事が多かった。	○	計画に沿った研修を行い、職員の不安を解消していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練については2ヶ月に1回実施を事業計画に組込んでいるが、他の災害時の対応策、また、地域の人々への協力依頼については取り組んでいない。	○	地域消防団との防災訓練を計画して依頼をする。また、一緒に防災訓練を行うことで入居者の方々の状況を知っていただく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	退院時など、症状の変化に伴うリスクについては家族等に説明を行っている。	○	生活する中で起こりえるリスクについて、家族に説明できるよう準備を行う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックに目を通して、食事量や顔色を観察し、入居者の変化に気をつけながら介護している。また、状態変化のある際は、職員が連携して観察を行い、更に併設施設の看護師、医療機関への相談対応を行っている。	○	入居者のアレルギーや持病などを詳しく理解し、リスクを無くしていきたい。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬チェック表に薬の作用が記載されており、入居者の服用している薬の確認を行っている。また、状態を観察し、薬剤調整を医療機関に依頼している。しかし、与薬忘れなど、完全な支援が出来ていない。	○	薬の責任者を設置。職員個々が入居者の服薬目的・用法を確実に把握をする事で、事故を無くすように努める。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の様子、入居者の水分摂取量などの状況を見て、便秘薬の調整を行っている。	○	強制ではなく、日課として毎日体操や散歩を行ってみる。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	現在は主に夕食後、口腔ケアを行っている。	○	毎食後の口腔ケアの実施に向けて、うがい・茶を飲むなどで口腔内の残渣物を取り除く事から始めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量チェックを行っている。食事摂取が偏っている方については家族からの情報(嗜好等)を得たり、管理栄養士への相談を行い対応をしている。水分についてもゼリーを作って対応を行っている。	○	水分量を増やすため、茶だけではなく好みにあわせて提供している。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが配布されており、研修を受けている。また、入居者はトイレ後、調理前後の手洗い、外出後のうがい・手洗いを励行している。	○	職員の出勤退勤時の手洗い・うがいの励行。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日冷蔵庫の清掃を行い、賞味期限のチェックを行っている。また、調理器具や布巾等は消毒している。	○	食在庫の見直し、検討を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には飾りを作ったり、花を生けたりして入りやすい工夫をしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁面を飾ったり、季節の花を生けるなどで季節感を採り入れている。	○	本棚を設置して雑誌や本を置けるスペースを作り、自由に読んだり、過ごせるようにしていきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は居室に戻られる。また、気の合った入居者同士が会話ができる居間や談話室を設けている。	○	好きな時に自分でお茶を入れたり出来る空間・設備を準備していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望、家族との相談で居室は居心地よく過ごして頂けるように、馴染みの家具や趣味の鉢などを持ち込んで頂いている。	○	リスクを考え、殺風景な居室の方も居心地よく過ごせるよう工夫していく。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や生活の節々で換気には留意している。空調調節も入居者に確認して調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険となるような物は取り除き、場所が理解できるよう工夫している。	○	居間の段差の改善や、重い扉（居室・トイレ）の取り扱いを工夫していきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所にはトイレを表示した紙を貼っている。 居室にも名前が分かるように大きく表示して、迷い・混乱を防ぐ支援をしている。	○	板の間とじゅうたんとコントラストの違いで恐怖心を感じている方もいるので、じゅうたんの色の工夫をするなどの支援を行っていく。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	作物の収穫を楽しんで頂いたり、草取り・水撒きといった活動が出来ている。	○	菜園へ出るためには段差がある為、誰でも気軽に出来るよう段差をなくすなどの工夫をしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中には地域との直接的な理念は挙げていないが、事業計画の中で記述している	○	一対一の関係を大切に地域との交流を深めていけるように具体的に計画したい。また、地域に根ざしたグループホームとは？と、スローガンを掲げ、職員間で考えていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者と職員との関係を大切にしていこう努めている。毎日の連絡会で理念の唱和を行い理解を深めている。		理念を掘り下げ職員間で話し合い、入居者に対するケアに繋げていきたい。また、基本理念は素晴らしい物で、誇りを持ち仕事に努めている。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族、地域との交流について現在少しずつ増やしているので、今後も機会がある毎に理念の理解をして頂くよう取り組みたい。	○	家族に対しては入居時や行事等の際に説明していく。また、季節行事には地域の方をお呼びして理念に触れていただく。更に回覧版、町内会などを活用していきたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節行事の中で地域の方に参加の呼び掛けを行い、入居者との交流を図った。	○	今後も行事担当などで地域の方の参加、地域小学校などとの交流を考えた行事起案をしていく。また、ホーム近辺のゴミ拾い、収穫できた野菜のおすそ分けなどを考えている。更に寄合いなどにも参加させていただきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	上記同様、地域の方たちとの交流を深めていけるよう努めている。交流方法を検討している。	○	行事の声掛けについて、回覧版の活用を考える。地域の行事に積極的な参加を考えている。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生や見学者の受け入れは行っている。	○	地区の除草作業に入居者と職員で参加していく。介護教室などの実施を考える。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業計画の中で、外部評価の実施を記述しており、予定を立て取り組んでいる。また、評価結果を基に、課題を抽出して取り組んでいる。		直ぐに取り組める環境整備にばかりでなく、入居者ケアを優先しての取り組みをして行く。 自己評価の事後評価を検討する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。会議内容はグループホーム会議で報告。更に、サービスの向上に繋がる意見については、職員の賛同を得て実施をしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスの質の向上に必要な際は相談を行い取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学習する機会が少ない。	○	制度に関する勉強会の参加機会を増やしたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて取り上げられ、職員は学習できている。 サービス評価委員会で「言葉、態度のえっ？」のアンケートを取る事などで、虐待防止に繋がると思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時の際に、ご家族に問いかけしながら説明を行っている。		家族が持っている不安や疑問点を率直に出せるような雰囲気作りに努める。

福岡県 グループホーム富の里 ユニット2階 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加されている入居者の意見 で、「合唱団」として毎週日曜日に時間を設 定して、歌を唄う活動が実施できている。	○	
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	各月に入居者家族へ、グループホームでの身 体面、日常生活の様子を手紙にして知らせて いる。	○	
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情受付窓口が設けられて いる。	○	行事や家族への便りの送付時を利用して、施 設内の意見箱、第三者機関の設置の周知を行 う。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	会議や人事考課での職員面接時に職員からの 意見が聴ける。 意見を運営に反映出来るように努めている。		職員からの意見を運営に反映できるよう、管 理者、主任者は話し合う機会を設定して実施 できるように努める。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	勤務調整に関しては、職員との相談を行い調 整できている。		入居者の要望に応える為には、ボランティア 導入も検討していきたい。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、離職の希望が出た場合など職員と の話し合いを持っている。また、入居者に対 してもダメージがないように対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	十分に配慮できている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人理念に人権尊重について述べられており、毎日の唱和を通じて職員の意識向上を図っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修やフォローアップ研修など、職員の段階に合わせて研修を実施している。基礎介護、認知症についての研修会などを行っている。		外部研修によるスキルアップを図っていく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者より、他施設の動向などについての情報提供はあるが、職員が地域の同業者と交流する機会がまだ設定できていない。	○	地域の同業者との交流を図れる勉強会や施設研修を企画していく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室の確保やサークル活動は設置できている。職員の悩みなど話せる体制が持たれている。		介護の中に楽しみがあることに気が付く事もストレスの軽減となると思われる。チームワークも必要である。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を活用しながら、職員の努力や勤務状況を把握し、各職員の意識向上を図っている。		向上心が持てる仕組みを作る。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接を実施して、入居者の状態把握に努めている。	○	十分な時間をもち、アセスメントを行っている。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込み時より、困っている事・不安や心配事を伺う事に努めている。 職員と情報の共有を図っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	幅広い支援は出来ていない。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は、他の入居者と上手く交流が図れるよう観察しながら充分関わりを持っている。	○	職員が初回面接に同行する。 入居者には、事前の見学をして頂き、環境に馴染めるような配慮を行う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は寄り添いながら、思いを受け止めている。また、入居者の豊富な経験から学んだり、人生の先輩、後輩として支え合いながら生活している。		
30	—	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の職員との会話を通して、お互いに情報交換が出来たり、依頼を受けたり、依頼出来たりする関係作りに努めている。 ケアカンファレンスに参加の依頼を行っている。	○	カンファレンスの参加を、多くの入居者家族にして頂けるよう働きかける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時にはゆったりと過ごして頂けるように配慮している。また、認知症の進行により家族との関係が悪化しないよう状態の説明を行っている。		入居者自身が家族へ手紙を書くことへの支援を試みる。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や入居者から生活歴や以前の生活環境等の聞き取りを行っている。行きつけの美容院、墓参りなど要望に応じて家族引率や職員引率で実施できている。	○	特定の入居者への支援になっている為、今後も個々のこれまでの関係を断ち切らないような援助を行う。馴染みの場所・馴染みの方への便り・友人を訪ねるなど、活動や環境作りの支援に取り組む。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士が良い関係を築けるように、また、孤立しがちな入居者には職員が積極的に関わりながら間に入っている。		孤立を感じさせない配慮として、一つは多人数でできる活動を考えていく。活動に関しては、職員間で今後も検討していきたい。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とされる方については関係を継続していく。		他事業所へ移られた方にも、利用者を連れて遊びに行ける援助をしていきたい。

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	医師決定の、ある程度可能な方については、希望や意向の把握に努めている。センター方式を活用しての把握に努めている。	○	把握できた意向や希望を実践するために、会議などで検討を行いサポートする体制を築いていく。利用者本位の介護提供に努める。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などに関しての一覧表が作成されており、ケアに活かされている。		職員が入居者との会話の中で得たエピソードや生活歴などを加えていく。家族面会時にも話を伺いケースに記述していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	状態チェック表の記入を行い、心身の状態把握に努めている。また、個別のケース記録に毎日の状況についての記録を行っている。情報の共有を行っている。	○	入居者の日常生活の把握、課題など各職員が共有して解決できるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者と家族にそれぞれ意向を伺い、介護計画を作成している。今年度よりカンファレンスに作業療法士が出席される事で、リハビリ関係の助言を受ける事ができるようになった。	○	担当職員は、実施に向けて他職員にケアプランの周知を行う。モニタリングを行い、より一層ケアの充実を図る。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際には必要な援助はしているものの、介護計画の見直しは遅い。	○	現状に即した介護計画の、モニタリングを継続していく事に努める。センター方式の活用方法の検討。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録として個別に記録して共有できているが、実践や介護計画の見直しには十分に活かしていない。	○	個別の記録から課題としての取り上げ、実践へとつながるような仕組みが必要。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に合わせた移行は実施している。デイサービスへの参加の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練について今後、消防署との連携を図って行く。地域の方の参加については模索中である。	○	地域の方へグループホームの周知を行う為、新聞やチラシを作成し、各団体や機関に持参、配布を行う。民生委員との関わりを持てるよう働きかける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	多機能性を活かしたサービス支援となっている。		近隣で実施されているサークルがあれば参加出来る様、援助していく。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設施設のケアマネージャーに相談、情報を得ている。		インフォーマル（非公式）なネットワークの構築を考えていく。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームのかかりつけ医があり、入居時に家族・入居者に説明を行い、承諾を得て医療を受けている。		受診した結果報告を家族に連絡するだけでなく状態を見て頂くために、家族の同行を依頼していく事も考えていきたい。個々の通院先も検討の必要性があると思われる。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症外来を受診し、継続した支援を受けている。		認知症が進み、他者とのトラブルが発生した場合、相談・治療を早急に行えるよう努める。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームの看護師や併設施設の看護師に、入居者の健康管理については相談が出来る体制があり、支援の依頼が出来ている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時期を確認しながら、退院に向けての情報交換や相談を病院関係者で行っている。		退院後の入居者のレベルに応じた環境整備を早急にできる体制を作っていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応に関しては、家族に相談を行っている。終末期の対応については、まだ取り組んではいない。	○	重度化対応については、まず職員との話し合いを充分に行う必要がある。また、指針作りをしていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化の対応は家族と相談を行いながら支援しているが、週末期に向けたチームでの取り組みは、まだ出来ていない。	○	今後に備えた検討や準備が必要である。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージを防ぐ為、ケア関係者にて十分な話し合いを持つようにしている。特に併設施設入所のケースには充分に対応できている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービス評価委員を活用しながら職員の言葉使いや態度について、改善のための取り組みを行っている。		「言葉使い・態度の《えっ?》」を活用し、職員の気付きを増やしていきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意見を言えるよう、物事を選択ができるような関わりを持つように努めている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意向を聞き、対応しているが充分ではない。	○	全体を把握しながら、個人のペースを尊重した対応を職員間で話し合い、支援を行っていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	意向の言える方、言えない方に関わらず移動理美容車を利用して頂いている。	○	入居前の馴染みのある、理容・美容の店を利用できる支援に努める。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食の副菜のみを作っている現状であるが、それ以上の取り組みについては困難である。食事についても、職員と一緒に席についてとるようにしているが楽しみとなるような働きかけが出来ていない。	○	食事の場面が、入居者にとって楽しみとなるような工夫をしていく。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を考慮しながら食事を提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、個別に対応している。	○	個々の排泄習慣を把握して、気持ちよく排泄できる支援をしていく。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の体調や希望等を伺いながら、毎日でも入浴して頂ける体制をとっている。	○	夜間入浴の習慣のある方に対応できるよう支援方法を考えていく。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別に生活パターンを把握しながら体調や状態に応じて休息や睡眠がとれるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る方には負担にならないように配慮しつつ、役割を担って頂いているが、全員に行えていない現状である。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部、能力のある方については、自己管理をされている。 ほとんどの方が職員管理である。	○	買い物時には、職員が側に付き金銭の出し入れ、支払いの支援をしていく。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時には外出できるよう対応を工夫しているものの、毎回の希望には対応が出来ていない。	○	業務の中で短時間でも希望に添えるような支援に努める。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として季節の花見、スポットへの外出を行っているが、回数が少ない。	○	個人の希望が達成できるよう、職員の活動として対応できるように努めるとともに、家族へ依頼して実現できるよう働きかける。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により支援を行っている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	気軽に来園して頂き、ゆったりと過ごしていただけるよう配慮をしている。 居心地よく過ごしていただけるように、居室に茶等を届けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 身体拘束廃止委員会を設置しており、研修の機会も設けている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間と職員が常駐しており、入居者の所在確認や様子観察を常に行い、安全確保に努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤は場所を決めて、危険がないように収納をしているが、能力のある方は作業の必要に応じて自由に取り出す事が出来ている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を設置している。 職員は、事故報告・ヒヤリハット報告を提出しており、報告を共有し事故防止に努めている。	○	個別の状態に応じた事故防止への取り組みが更に必要である。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2ヶ月に1度、緊急時の対応の研修を計画しているが、実施できていない事が多かった。	○	計画に沿った研修を行い、職員の不安を解消していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練については、2ヶ月に1回実施を事業計画に組込んでいるが、他の災害時の対応策、また地域の人々への協力依頼については取り組んでいない。	○	地域消防団との防災訓練を計画して依頼をする。また、一緒に防災訓練を行うことで入居者の方々の状況を知っていただく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	退院時など症状の変化に伴うリスクについては家族等に説明を行っている。	○	生活する中で起こり得るリスクについて、家族に説明できるよう準備を行う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックに目を通して、食事量や顔色を観察し、入居者の変化に気をつけながら介護している。また、状態変化のある際は、職員が連携して観察を行い、更に併設施設の看護師、医療機関への相談対応を行っている。	○	入居者のアレルギーや持病などを詳しく理解し、リスクを無くしていきたい。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬チェック表に薬の作用が記載されており、入居者の服用している薬の確認を行っている。また、状態を観察し、薬剤調整を医療機関に依頼している。しかし、与薬忘れなど、完全な支援ができていない。	○	薬の責任者を設置。職員個々が入居者の服薬目的・用法を確実に把握をする事で、事故を無くすように努める。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の様子、入居者の水分摂取量などの状況を見て、便秘薬の調整を行っている。	○	強制ではなく日課として、毎日体操や散歩を行ってみる。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	現在は主に夕食後に、口腔ケアを行っている。	○	毎食後の口腔ケアの実施に向けて、うがい・茶を飲むなどで口腔内の残渣物を取り除く事から始めている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量チェックを行っている。食事摂取が偏っている方については家族からの情報(嗜好等)を得たり、管理栄養士への相談を行い対応をしている。水分についてもゼリーを作り対応を行っている。	○	水分量を増やすため、茶だけではなく好みにあわせて提供している。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが配布されており、研修を受けている。また、入居者はトイレ後・調理前後の手洗い、外出後のうがい・手洗いを励行している。	○	職員の出勤退勤時の手洗い・うがいの励行。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日冷蔵庫の清掃を行い、賞味期限のチェックを行っている。また、調理器具や布巾等は消毒している。	○	食在庫の見直し、検討を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には飾りを作ったり、花を生けたりして、入りやすい工夫をしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁面を飾ったり、季節の花を生けるなどで季節感を採り入れている。	○	本棚を設置して雑誌や本を置けるスペースを作り、自由に読んだり、過ごせるようにしていきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は居室に戻られる。また、気の合った入居者同士で会話ができる居間や談話室を設けている。	○	好きな時に自分でお茶を入れたり出来る空間・設備を準備していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望、家族との相談で、居室は居心地よく過ごして頂けるように、馴染みの家具や趣味の鉢などを持ち込んで頂いている。	○	リスクを考え、殺風景な居室の方も居心地よく過ごせるよう工夫していく。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や生活の節々で換気には留意している。空調調節も入居者に確認して調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険となるような物は取り除き、場所が理解できるよう工夫している。	○	居間の段差の改善や、重い扉（居室・トイレ）の取り扱いを工夫していきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所にはトイレを表示した紙を貼っている。 居室にも名前が分かるように大きく表示して、迷い・混乱を防ぐ支援をしている。	○	板の間とじゅうたんとのコントラストの違いで恐怖心を感じている方もいるので、じゅうたんの色の工夫をするなどの支援を行っていく。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	作物の収穫を楽しんで頂いたり、草取り、水撒きといった活動が出来ている。	○	菜園へ出るためには段差がある為、誰でも気軽に出来るよう段差をなくすなどの工夫をしていきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての家族と	
					②家族の2/3くらいと	
					③家族の1/3くらいと	
					④ほとんどできていない	
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ毎日のように	
					②数日に1回程度	
					③たまに	
					④ほとんどない	
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①大いに増えている	
					②少しずつ増えている	
					③あまり増えていない	
					④全くいない	
100	—	○職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての職員が	
					②職員の2/3くらいが	
					③職員の1/3くらいが	
					④ほとんどいない	
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2/3くらいが	
					③利用者の1/3くらいが	
					④ほとんどいない	
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての家族等が	
					②家族等の2/3くらいが	
					③家族等の1/3くらいが	
					④ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の発案を基に、合唱団を立ち上げ毎週日曜日に活動を行い「地域交流会」「校区夏祭り」「交歓大会」にて成果を披露している。
ボランティアが中心ではあるが、菜園での野菜の収穫ができ夕食の副菜材料として入居者へ提供できている。
外部・内部研修が充実してきており、知識の向上が図れている。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	-	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
98	-	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
99	-	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
100	-	○職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
101	-	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
102	-	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の発案を基に、合唱団を立ち上げ毎週日曜日に活動を行い「地域交流会」「校区夏祭り」「交歓大会」にて成果を披露している。
ボランティアが中心ではあるが、菜園での野菜の収穫ができ夕食の副菜材料として入居者へ提供できている。
外部・内部研修が充実してきており、知識の向上が図れている。